

阿智村事務事業評価シート

| | | | | |
|-------|-------------|-----|-------|-------|
| 事務事業名 | 特産物開発加工研究事業 | 担当者 | 地域経営課 | 浪合振興室 |
|-------|-------------|-----|-------|-------|

①事務事業の概要

| | |
|------------|--|
| 総合計画での位置づけ | 3. 地域を支える力強い産業の村／産業の振興／特産物開発・機能性食品加工の推進 |
| 関連する主な計画等 | |
| 根拠法 | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 |
| 事業の対象者 | 特産物の商品開発のため、FD器機等を使用し加工利用する村民 |
| 事業開始年 | H26 <input type="checkbox"/> 時期不明 |
| 事業の終期 | <input type="checkbox"/> 終期未定 |

②事務事業の計画(PPLAN)、取組(DO)

| | |
|-------|---|
| 実施目的 | 特産物の開発加工研究を行い販売を目指す。農商工の連携、6次産業化をはかり、産業従事者の拡大を行い、地域経済の活性化と農業を始めとする産業の振興を目指す。菊芋の効能研究を行い、付加価値のある商品開発と販売を目指す。 |
| 具体的取組 | 「御所の里」に設置してある、FDや粉砕器、温風乾燥機を研究として利用するための光熱費を委託料として、開発研究のための試験加工に対し、施設利用者の機械使用料を補助金として支出。信州大学農学部と阿智村、村内企業との3者により、菊芋のポリフェノールBの効能量について共同研究をおこなった。 |
| 実績・効果 | 特産品開発研究試験加工実績 H26年度 9件(345千円) H27年度 14件(385千円) 信州大学、阿智村、村内企業の3者での共同研究をH26. 27年と2年間行い、研究結果を基に村内企業にて商品化に向けた取り組みを進めていただけそうな状況です。 |

| | | | | | | |
|---------------|-------------|------|-------|-------|------|------|
| 歳出の内訳 (千円) | 項目 | 金額 | 項目 | 金額 | 項目 | 金額 |
| | 委託料 | 390 | | | | |
| | 負担金補助金及び交付金 | 675 | | | | |
| 事業コスト | 区分 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
| | 実績額 (千円) | | 1,025 | 1,065 | 780 | 780 |
| | うち一般財源 | | 1,025 | 1,065 | 780 | 780 |
| | うち補助金 | | | | | |
| | うち個人負担 | | | | | |
| | 従事職員(人) | 正規職員 | | | | |
| | 臨時職員 | | | | | |

③評価(CHECK)

| | | | | |
|------|----------------|------|---|---|
| 区分 | 個別判定 | 判定理由 | 総合判定 | |
| 必要性 | 住民のニーズは高いか | b | 特産物開発加工研究の要望はある。 | B |
| | 手段、成果は妥当か | a | 産業の発展の手段として効果的である。 | |
| | 対象者の設定は妥当か | b | 村民を対象としているが、広く周知ができていない。 | |
| | 村の関与は妥当か | b | 特産品の開発と販売による農業の持続的発展、遊休荒廃農地の解消のためにも妥当である。 | |
| 有効性 | 期待された効果が得られたか | | 商品化につながるなど一定の効果が得られた | B |
| 効率性 | コストの削減に努めたか | b | 補助に対しての検討が必要 | B |
| | 効率性を高める工夫はされたか | b | 開発研究加工の進め方の検討が必要 | |
| 公平性 | 受益者負担は適切か | | 機器の清掃料や経費につき負担していただいている。 | A |
| 総合評価 | B | | | |

④改善(ACTION)

| | |
|---------|--|
| 事業の方向性 | 継続・維持 |
| 課題 | 一定の効果が出ているが、事業内容や菊芋の生産量の確保、FD・温風乾燥機等の有効活用をするための今後の取組につき検討が必要。開発特産物の販売についての研究が必要。 |
| 今後の取り組み | 企業等の開発研究の場として施設利用を可能とし、年間を通じての利用を進めていく。 |